特集

# 曇天を通して感じた日食

富田晃彦（和歌山大学）

## 1. はじめに、かつ、結論

今回の日食、和歌山では、時折小雨も降る曇天を通してでした。しかし、日食をとても楽しむことができました。負け惜しみではありません。

## 2. 日食当日

私はその日、和歌山県立向陽高校に出向きました。向陽高校は、科学系のクラブ活動が盛んなところです。SSH の指定も受けており、中学校も併設されています。向陽高校および併設の中学校の、科学系クラブの部員さんと顧問の先生とで運動場に出て、肉眼で「あ～」（雲の切れ間から、欠けた太陽が少し見えた時）「う～ん」（念力で雲を払いのけようとしている時）と声を上げながら、騒いで見ていました。和歌山での食分は 8 割強。食の最大の時、目ではそんなに目立たないものの、少し暗くなったことを感じ取ることができました。曇天の空は見つめても眩しくありません。日食後は曇天を通しても、空は眩しいものでした。また若干気温が下ったのを感じました。日食後は、いつもの蒸し暑さが戻ってきました。また、食の最大時近くでは、風はいっそう無くなり、蝉の鳴き声も静かになりました。

## 3. 学生からの報告

私は大学で「保育内容（自然環境）」という授業を担当しています。その受講生には、主に自宅で日食を感じてもらっていました。印象的だったものをいくつか紹介します。

- 犬の散歩をした。いつもの散歩コースを行ったが、犬がいつもと違うところで止まった。飼い主の何かの変化を読み取った、のかな？
- 自宅近くの山に登った。近所の家のひまわりが、食の時は下を向いていた。
- 人が近づくと点灯するセンサーがあり、それは夜に働くが、それが働く程は暗くなっていなかった。ツバメは普通に活動をしていた。
- 食が進んでくると、スズムシ、キリギリスの声が聞こえ始め、10 時半にセミが鳴き止み、10:45 にはくさむらの中の虫の声だけになった。しかし鳥は比較的普通だった。11:07、近所の人が出てきて、外は人の声で騒がしくなった。11 時半にトンボが飛び、11:40 にはセミが再び鳴き始めた。

また、私が卒業研究で指導している学生の一人が、気温の変化を測定していました。この結果は、別の機会に紹介したいと思います。

## 4. 今回の成果

こんなに天気が悪くても、食分が 8 割で皆既でなくても、虫のようすは随分変わる、人も変わる、体感温度も変わる、周りの明るさや色の変化も感じられる。耳を澄まして、目を凝らして、自然を感じ取ろうとしていれば、いろいろ感じられる。旅行代金なし、高価な機器購入代金なしでも、日食は十分たのしめる、ということが分かりました。

しかも、世の中こんなに人々が騒ぐなんて、すごいではないですか。泣き笑いの振幅も、ものすごい。日食で一番変化があったのは、風でも花でも虫でも鳥でもなく、ホモ・サピエンスでしたね。